

活動報告

春を待つ(ひる)農園

一年前の冬、こんな土地では稲作以外に何も出来ない、誰も農園に参加してくれないのではと、不安を抱きながらの土造りでした。近くの農園から肥えた土を土嚢袋(ドラゴロス)に入れては乗用車のトランクに積み込み運びこみ土作りに専念していました。

その成果が夏頃から少しずつ出てきて、夏野菜のトマトやナス・キュウリがとれるようになりました。

秋頃からもう少し農園を増やして欲しいとの要望に応え約 50% 増やしました。

今年、農園に参加したい方が待っていてくれます。こんな事から今、農地法の勉強もしています。

寒くなると、農園に出るのも面倒になってしまいます。農園も冬の間はお休みという場合が多いのですが、冬だからこそ出来る農園の仕事もあります。来年の春のために、

植物が休んでいる冬の間に土作りをしておきましょう。

私達の農園の 1~2 月は、土作りの期間、春に向かっている体力造りの期間ではないかと思っております。

11~12 月に掘り起こして埋めた枯れ葉等が新しい年の堆肥となってくれ、為に一生涯懸命働き発酵をしてくれているので、イチゴに花が咲いたと喜んでいたら、それは取ってあげるのがイチゴの方から指導を受けました。

イチゴも一番おいしい時期に一齐に花を付けおしく食べて欲しいと今は

栄養を貯めているのだからです。 S・O

甘辛チャンネル

梅月 如月

「鬼は外、福は内」豆まきの翌日はもう立春。寒さの鬼は逃げて行ったでしょうか? いやいや 2 月は一年中で一番冷たい風が吹きすさみます。

高槻は南北に長い土地で山間部は雪が降ったり南部の平地も淀川に注ぐ支流から冷たい川風が身を吹き抜けて行きます。

寒さを避けて家に閉じこもっている流行(はやり)のメタボになってはいけないと思いついては

ける人、用事があつて出かける人、冷たい風に向かっけて歩く人、なるだけ風が当たらない場所を見つけて歩いたり、皆自分なりに工夫している姿を見かけます。

一九二九年の世界大恐怖の到来とアメリカを初め全世界は対策を練っています。地球上のちっぽけな人間でさえ冷たい風に乗るか避けるか考えながら道を歩きます。

△△の不足とかメディアは報じています。某新聞のコラムニスト天野祐吉氏の「欲しがりません勝つまでは」の記事を読み、小学六年生で終戦を迎えた筆者は、戦

争中、この言葉を寝言の如く唱えさせられた想いが改めて身近に感じます。ガマンはつまらないと思うが、ガマンは教訓と思うかは人それぞれでしょうね。 N・Y

戦後 60 余年 語り継がねば! 戦後 60 余年、戦時体験者は高齢化し、又、直接戦地に行き戻って来られた元軍人は戦死した友のことを思いなのかな語れない。

テレビで放映されていますが殆どの方は、当時の思い生還した自責の念にかられ、涙を流されています。

テレビでも新聞でも 1 ヶ月に 1 度位戦争時体験談を放映や掲載されます。筆者は昭和 20 年 3 月 13 日と 14 日の大阪空襲

の大阪の空を府下の八尾町(現在は八尾市)の家からと言うか、防空壕を出て眺めましたが、真っ赤な夜空の光景が目につきました。 筆者は、直接戦地に行っていない故、かえって内地で戦時中の体験を語り伝えたいと言う気持ち

四季彩

早春の花

2 月 7~8 日は第 50 回「新春富田文化展」が富田公民館で開催されていました。書道、華道、茶道、絵画、漢詩、俳画、陶芸、写真等秀作が 1 階から 3 階まで溢れんばかりに展示されていて、大変豪華な展覧会でした。ついでに、散歩がてら富田界隈をサイクリングして写真に収めてきました。

「早春の花々」です。



日本水仙は今が花盛りで町の至る所に咲いています。

[葉牡丹と日本水仙] 桜ヶ丘南の町の「某 鍼灸院」の玄関前に作られた植栽です。



木道は富田植木園の歩道で咲いていて黄色い花が目を惹きました。 T・N

味わいWAY

黒豆ご飯

があるのかもしれませんが戦後教育では、戦争の話はタブー視していた風潮がありました。事実が事実として有ったのです。語り継ぐとは申せ、現在の人は想像出来ないと思います。ですから、歴史としてとらえて頂ければ良いと割り切って・・・

今、ガザ地区、アフリカ、印パ、アフガニスタンの戦火の映像をテレビで観るたびに 60 余年前の日本を思い出します。「日本もあんな歴史があった」として伝えればよいか? と思っています。 N・Y

材料 米 2 合
もち米 1 合
黒豆 1 合
梅干 2 個
作り方 米ともち米は洗う。黒豆はフライパンで炒る。梅干は細かく刻む。材料全部を一緒に炊く。出来上がり少し塩を振る。梅干からピンク色がでて黒豆に映えてとても綺麗です。 M・K